



世界中の低所得層の子どもたちのために教育を継続させるための皆さまからのご支援に感謝致します。

新型コロナウイルス感染症（以下：COVID-19）が発生した時点で、15 億人以上の子どもと若者が学校に通えず、その中にはルーム・トゥ・リードが活動している 16 カ国すべての生徒が含まれていました。学校閉鎖により通常のプログラム運営が中断されたにもかかわらず、ルーム・トゥ・リードチームは戦略的にプログラム活動を転換し、子どもたちのために遠隔学習の機会を創出しました。

インターネット接続の欠如、経済的困難、保護者の関与の低さなどの障害がある中で、できるだけ多くの子どもたちに手を差し伸べることができるよう、エビデンスに基づいた、かつ文脈に特化したプログラムの転換を行いました。これらの活動を補完するために、グローバルな調査・モニタリング・評価チームは、ピボット活動を追跡・測定し、より強力な学習組織としての地位を確立するための追加の指標を開発しました。

2020 年 4 月 1 日から 2020 年 5 月 31 日までのピボット指標の結果を共有できることを嬉しく思います。これらの指標は、ルーム・トゥ・リードの COVID-19 への対応の範囲と幅広さ、およびプログラムに参加している子どもたちの適応力を把握しています。

グローバルの結果

識字教育プログラム

129,893,996 世帯

テレビやラジオでの放送

1,439,722 通ダイレクトメッセージ

SMS、電話、ソーシャルメディアで送信

75,305 人

ダイレクトメッセージを受信

3,697 時間

配信されたバーチャルトレーニングとサポート

523 タイトル

絵本を出版

12 言語アップロード

電子プラットフォーム「リテラシークラウド」

女子教育プログラム

34,241 メンタリングセッション数

少女に遠隔で実施

23,759 人

遠隔での個人メンタリング

223,690 通ダイレクトメッセージ

SMS、電話、ソーシャルメディアで送信

24,893 世帯

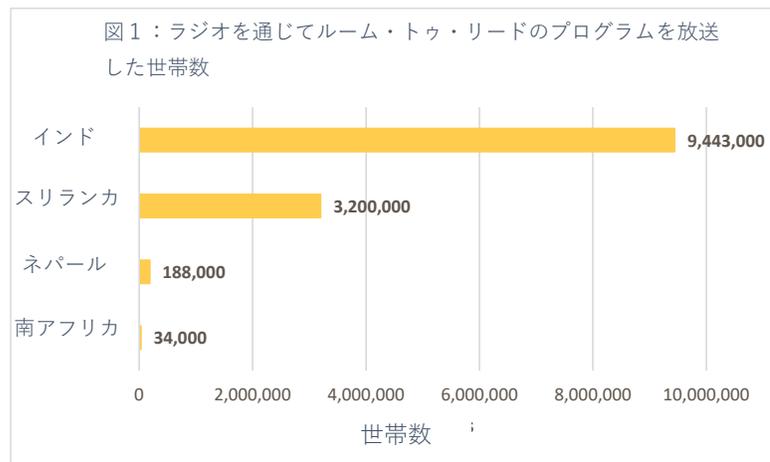
ダイレクトメッセージを受信

識字教育プログラムの転換

テレビやラジオ番組

インターネットやスマートフォンへのアクセスが制限されている地域の子どもたちにリーチするのは困難ですが、ラジオは広く利用可能です。ユネスコは、世界の世帯の75%がラジオを利用できると報告しているため、ルーム・トゥ・リードはラジオ局と提携して、識字教育プログラムの子ども向けに様々な教育プログラムを配信しています。政府やコミュニティからの要望に応じて、ルーム・トゥ・リードのラジオ番組は、危機が始まって以来、**図1**に示すように、4カ国で**12,865,000世帯**に放送されてきました。

南アジア全域でテレビが普及していることから、ルーム・トゥ・リードはインドとスリランカでも、農村部でのカバー範囲が広いテレビ局とのコラボレーションに取り組んでいます。コンテンツは、読み聞かせの動画や、保護者向けに家庭にいながら子どもの読書習慣をサポートするためのヒントが含まれています。2020年5月時点で、インドだけで**117,028,996世帯**にテレビ番組が放送されました。



ダイレクトメッセージ

テキストやダイレクトメッセージングは、多くの国で拡張性があり、アクセスしやすいコミュニケーション手段であるため、ルーム・トゥ・リードはこれらのコミュニケーション手段を利用して、保護者が子どもたちと一緒に識字活動に取り組むよう促しています。ルーム・トゥ・リードの各国チームは、子どもたちの学習意欲を維持するために、様々なバーチャルプラットフォームを利用して教師や生徒、その家族にメッセージを送り、危機の発生から2020年5月までに合計**1,439,722通**のメッセージを送信しました（**図2.1**）。これらのダイレクトメッセージや電話、Eメールを通じて、推定**75,305人**に到達し、休校中も子どもたちがスキルを身につけ、読書習慣を習得できるようにしています（**図2.2**）。

表 2.1: 識字教育をサポートするために送ったダイレクトメッセージ数

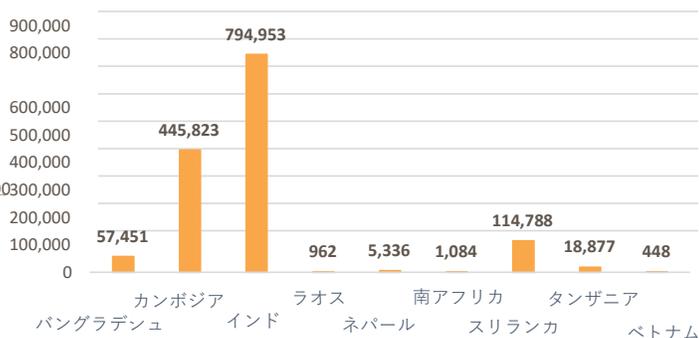
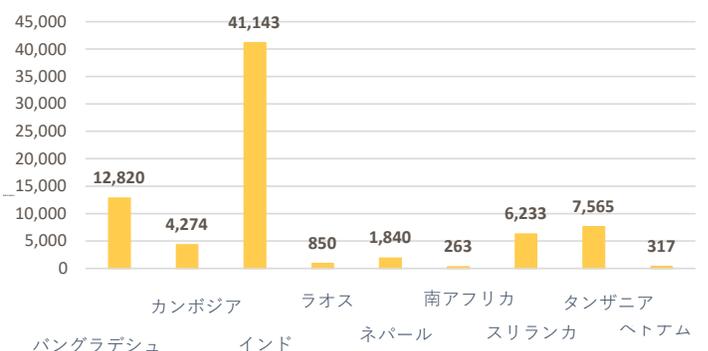
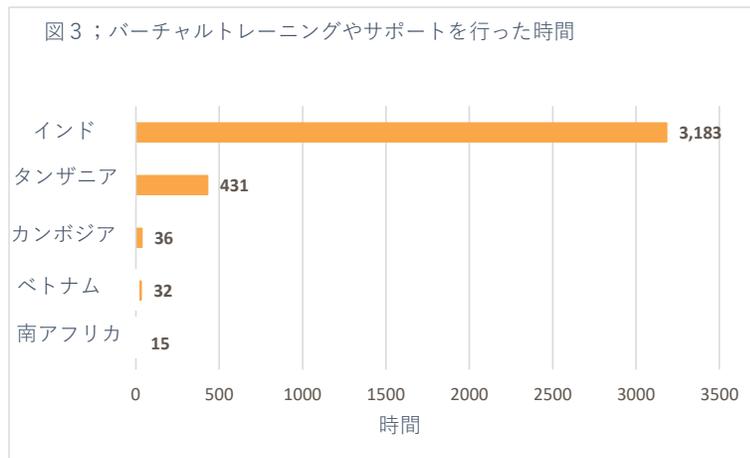


表 2.2: 識字教育をサポートするためのダイレクトメッセージを受け取った人



国際的な教育コミュニティのための能力開発は、ルーム・トゥ・リードの活動に欠かせないものです。私たちのプログラムを可能にするためには、教師、管理者、著者、イラストレーターをサポートする必要があります。COVID-19



の間、教師、学校の指導者、本の制作者、保護者、その他の関係者をリモートで効果的にサポートし、学校が再開した際に学習が軌道に乗るようにするために、バーチャル・アウトリーチを通じて能力構築を行ってきました。図3に示すように、2020年5月時点で合計**3,697時間**のバーチャルトレーニングやサポートが実施されています。

女子教育プログラムの転換

ダイレクトメッセージ

識字教育プログラムのピボット活動と同様に、休校期間に女子教育プログラムの参加者と連絡を取り合うためには、テキストや電話を使ったメッセージングは、ソーシャルモビライザーにとって最良の方法のひとつです。各国チームは、様々なバーチャルプラットフォームを使って、少女とその家族に連絡を取っています。図4.1に示されているように、危機の発生以来、合計**223,690通**のメッセージを送っています。

ルーム・トゥ・リードは、少女が学校に戻り、教育を終え、自分の将来を追求できるように、ダイレクトメッセージ、電話、Eメールを通じて、**24,893人の少女、両親、教師、地域社会のメンバー**に手を差し伸べています。図4.2は、国別の到達世帯を示しています。

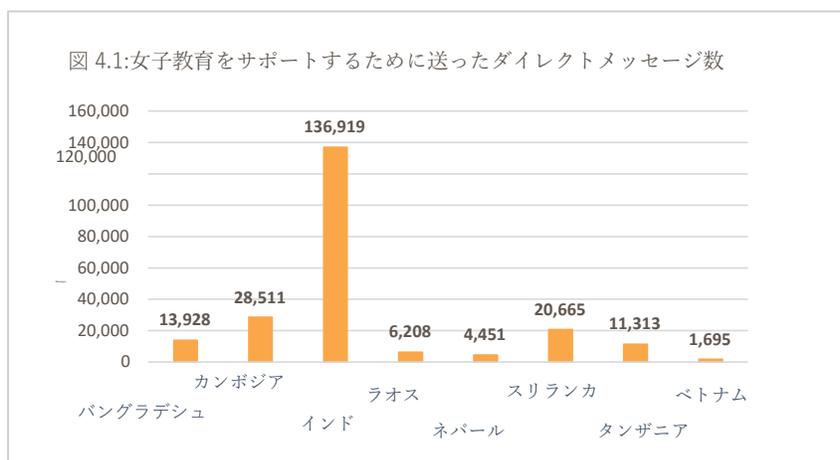
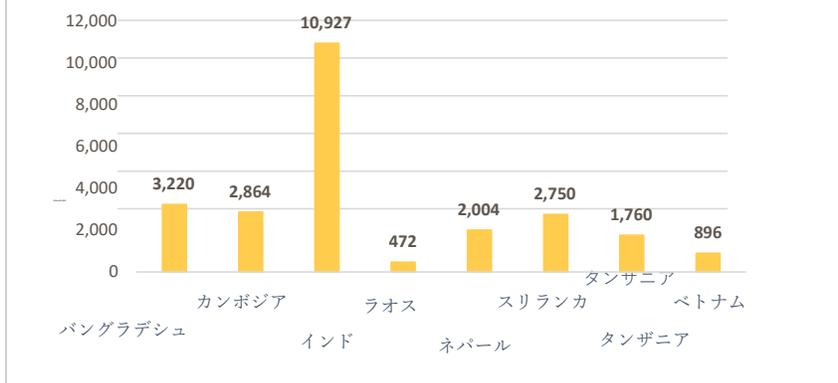


図 4.2 女子教育をサポートするためにダイレクトメッセージを受け取った世帯数



遠隔からのメンタリング

メンタリングとライフスキル教育は、ルーム・トゥ・リードの女子教育プログラムの中核をなす2つの要素です。私たちのチームは、学校が閉鎖されているにもかかわらず、少女にメンタリングとライフスキルセッションを提供し続ける方法を見つけるために、迅速に取り組んできました。例えば、ソーシャルモビライザーは電話で女の子と1対1のメンタリングセッションを行っています。このセッションの目標は、定期的に心身の健康状態を確認し、学業についていけるように励まし、安全で健康的な生活を送るための最新情報を共有することで、この危機的状況にある少女たちを精神的にサポートすることです。

ルーム・トゥ・リードは、学校閉鎖中の少女に重要なタッチポイントを提供しており、2020年4月から5月の間に、プログラムに参加している合計**23,759人**の女子生徒に34,241回の遠隔指導セッションを実施しています（**図 5.1 と 5.2**）。これは、女子教育プログラムに登録されている少女全体の58%に到達したことに相当します

図 5.1；遠隔でのメンタリングセッション数

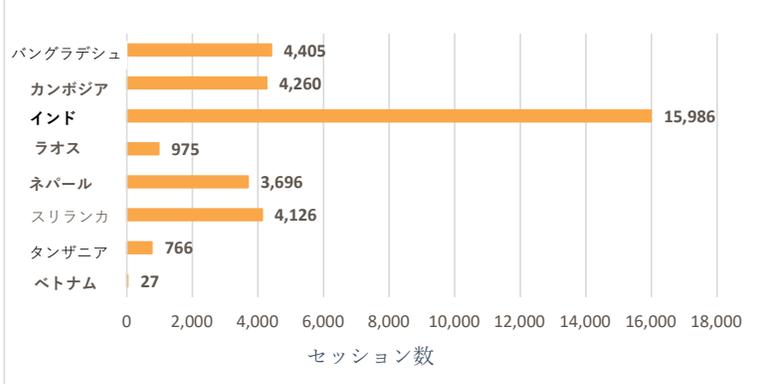
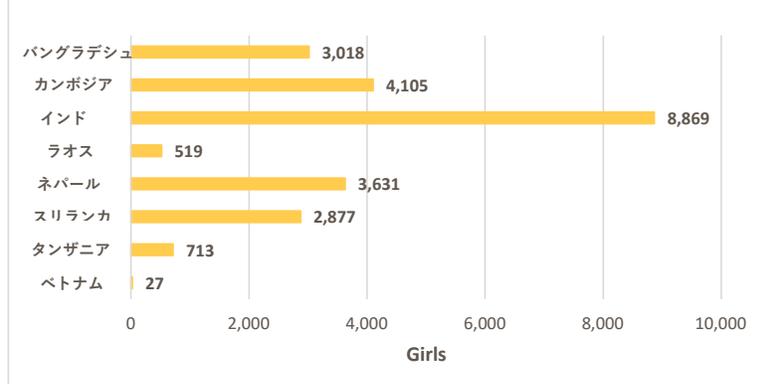


図 5.2；遠隔でのメンタリングセッションを受けた少女の数



リスクに直面している少女へのモニタリング強化

ルーム・トゥ・リードの調査、モニタリングそして評価チームは、学校が再開した時に学校に戻らないリスクがある少女を追跡するために、独自の中退リスク指標を作成しました。3つのリスク要因—自宅で勉強を続けていない少女、COVID-19が原因で家族の誰かが仕事や収入源を失った家庭にいる少女、学校が再開されたら学校に戻れるかどうか

心配している少女の3つを追跡します。これらの質問は、プログラム対象国の約 24,000 人の少女に調査を通じて行われ、結果は以下の通りです。

世界的に見ると、女子教育プログラムの参加者の **92%**が、休校中に自宅で勉強することで学業を維持しています。しかしながら、休校中に自宅で勉強することで学業を維持するのに苦労している少女は、**8%**または約 **2,000 人**もいます (図 6.1)。プログラムに参加している少女に影響を与えている経済的苦難は非常に深刻で、リスク調査に回答した少女の約 **42%**または **10,000 人**が、COVID-19 の影響で、家庭の一員が仕事や収入源を失ったと回答しています (図 6.2)。最後に、図 6.3 では、**7%**または **1,640 人**の少女が学校に戻ることを心配していることについて「はい」と回答しています。

図6.1 現在、自宅で学習をして勉強を続けることができますか？

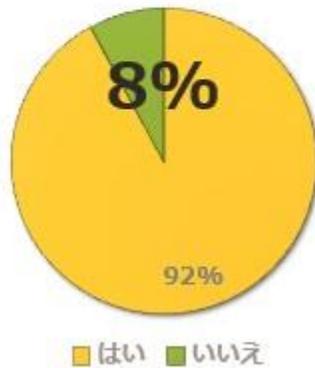


図6.2 COVID-19の影響で、家族の誰かが失職したり収入源がなくなりましたか？

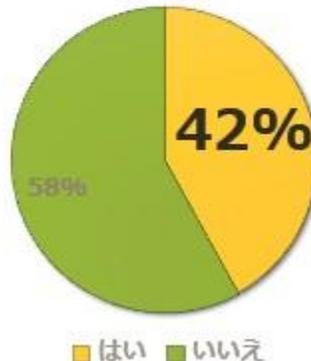
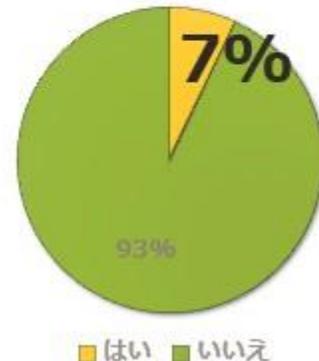


図6.3 学校が再開されたら、学校に戻ることに不安がありますか？



この完全な結果から、2人に1人、**49%**の少女が学校に戻らない高いリスクのカテゴリーに入っていることが分かりました。今後も、女子教育プログラムの参加者をモニタリング追跡し、必要に応じて支援を行い、プログラムへの参加と継続的な教育を奨励していきたいと考えています。

今後について

ルーム・トゥ・リードは、COVID-19 に直面している世界中の子どもたちのために教育を継続させることに専念しています。そのために、ルーム・トゥ・リードは、ピボット指標を用いて生徒の進捗状況と関与度を継続的に追跡していきます。学校が再開されても、子どもたちが学校に戻ったり、通常通りに勉強が再開されるわけではないことを私たちは知っています。勉強が通常どおり再開されることを意味している訳ではありません。この再開期間中、各国のチームは、子どもたちが教室に戻ってきたときに、どのようなピボット活動が引き続き役立つかを判断しています。私たちが構築してきた遠隔学習のためのチャンネルは、学校が開校しても、生徒の安定性と一貫性を確保する上で重要な役割を果たすと考えています。そのため、ピボット活動と標準的な識字教育および女子教育プログラムを組み合わせた混合プログラムのアプローチを模索しています。これにより、以下のようなメリットが得られます。

- 1) COVID-19 件の増加により学校が再閉鎖された場合の一貫性
- 2) プログラム全体にとって価値のある働き方（複数のバーチャルプラットフォームを介して実施されるトレーニングやワークショップなど）を通して学んだ費用対効果
- 3) 家庭や地域社会の子どもの教育への関与を深め、家庭での学習をより完全に統合したものにする。

学習の継続性をサポートするためにプログラムを適応させていく中で、皆様からのご支援に感謝するとともに、私たちの活動が進化し続ける中で、定期的にアップデートさせていただきますことを楽しみにしています。

